

2019 年 9 月 2 日 (第 9 回)

2019 年度 JLA 中堅職員ステップアップ研修 (2)

領域：図書館を運営する

図書館経営の評価

須賀千絵 (実践女子大学)

第一部 図書館評価の背景と現状

1. 行政改革と評価

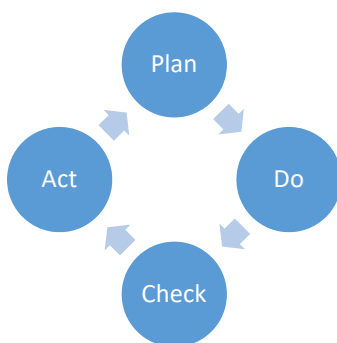
1990 年代末頃からの New Public Management (NPM) への着目

NPM の基本的特徴：

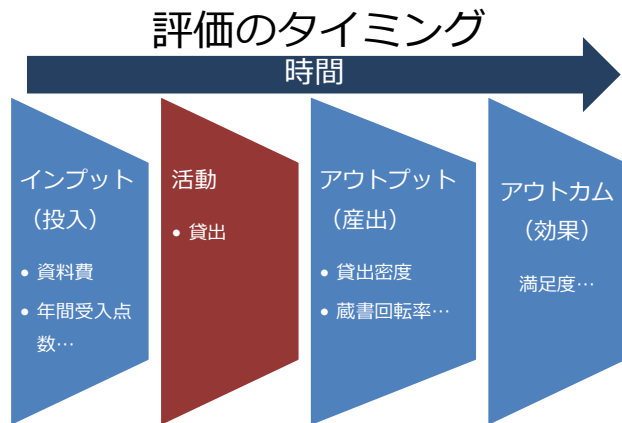
- ① 業績・成果による統制
- ② 市場メカニズムの活用 (例 民間事業者への委託)
- ③ 顧客主義
- ④ ヒエラルキーの簡素化 (→組織のフラット化) ¹

業績・成果による統制

- 人事評価, 予算配分などとの結びつき
- 目標管理
- PDCA サイクル



パフォーマンス測定： 経営計画の立案や改善に活用するために、資源の投入にあたる**インプット**、サービスの産出にあたる**アウトプット**、住民や社会に対してもたらされた便益にあたる**アウトカム**を測定すること



10

2. 図書館界における評価

2.1 サービス指標の開発

指標 (indicator)： 評価における良し悪しの「めじるし」。目標達成の程度を数量的に示すもの。

表 1 公共図書館における伝統的な評価指標

指標	定義 (計算方法)
蔵書新鮮度	受入冊数 / 蔵書冊数
貸出密度	貸出延べ冊数 / 定住人口 (= 実質貸出密度 × 登録率)
実質貸出密度	実質貸出密度貸出延べ冊数 / 登録者数
蔵書回転率	貸出延べ冊数 / 蔵書冊数

2.2 日本の公共図書館と評価

基準 (standard)： 最終的に評価の良し悪しを判定するうえでの「よりどころ」

- ① 量的基準： 数値指標のセット
- ② 質的基準： 文章で望ましい形を示すなど、数量によらない基準

- 2001 年「**公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準**」
数値目標の設定と自己評価, 評価結果の住民への公開 (努力義務)
- 2008 年 **図書館法改正** (第 7 条の 3, 第 7 条の 4)
図書館の運営状況に関する評価と改善及び運営状況に関する情報提供 (努力義務)
- 2012 年「**図書館の設置及び運営上の望ましい基準**」
自己評価 + 外部評価・第三者評価, 評価結果の公開 (努力義務)

⇒市区町村立図書館における評価の実施率 58.1% (2016 年)²

「望ましい基準の目標基準例」

(『図書館の設置及び運営上の望ましい基準：活用の手引き』)³

下記の項目について, 人口段階別に, 貸出密度上位 10%の自治体平均値を例示

1. 図書館数
2. 延床面積(m²)
3. 自動車図書館数
4. 専任職員数
5. うち司書(専任)
6. 司書率(専任)
7. 非常勤・臨時職員数
8. うち司書(非常勤・臨時)
9. 委託職員数
10. 司書(委託)
11. 蔵書冊数
12. 蔵書のうち開架冊数
13. 図書年間購入冊数
14. 雑誌年間購入種数
15. 新聞年間購入種数
16. 登録者数
17. 貸出点数
18. 人口当貸出点数
19. 予約件数
20. 図書館費(経常費)
21. 資料費(臨時含む)
22. うち図書費
23. うち雑誌新聞費
24. うち視聴覚費
25. 人口当資料費

2.3 国際的な図書館評価の動向

表 2 図書館評価に関する国際・国内規格・テクニカルレポート

国際規格・テクニカルレポート	対応する国内規格
ISO2789 :2006 図書館統計	JIS X 0814「図書館統計」(最新版 2011 年改訂)
ISO11620 : 2014 図書館評価の指標	JIS X 0812「図書館パフォーマンス指標」(後述) (最新版 2012 年改訂 *ISO2008 年改訂版に対応)
ISO/TR 28118 : 2009 国立図書館のためのパフォーマンス指標	
ISO16439 : 2014 図書館のインパクト評価	

(注1) テクニカルレポート：国際規格と同様に国際標準化機構によって制定されるが、規格よりコンセンサスが低いもの)

(注2) インパクト：「図書館サービスとの接触によって生じた、個人又は集団における異なり・変化」4

参考：表3 JISX0812:2012(ISO11620:2008)⁹ で規定されている指標

サービス, 活動, あるいはその他測定されるもの	指標
資源・アクセス・基盤	
(1)コレクション	要求タイトル利用可能性, 要求タイトル所蔵率, 主題目録探索成功率, 不受理セッションの割合
(2)アクセス	配架の正確性, 閉架書庫からの資料出納所要時間(中央値), 図書館貸出の迅速性, 図書館間貸出の充足率
(3)施設	人口当たり利用者用ワークステーション数, 人口当たりワークステーション利用可能時間, 人口当たり利用者用領域の面積, 人口当たり座席数, 開館時間と利用者ニーズとの一致度
(4)職員	人口当たり職員数
利用	
(1)コレクション	蔵書回転率, 人口当たり貸出数, 利用されない資料の所蔵率, 人口当たりダウンロードされたコンテンツ単位数, 人口当たり館内利用数
(2)アクセス	人口当たり来館回数, 情報要求サービスにおける電子的手段による申込割合, 外部利用者の割合, 外部利用者による貸出率, 人口当たり図書館の催物参加者数, 人口当たり利用者教育参加者数
(3)施設	利用者用座席占有率, ワークステーション利用率
(4)全般	ターゲット集団の利用率, 利用者満足度
効率性	
(1)コレクション	貸出当たり費用, データベースセッション当たり費用, ダウンロードされたコンテンツ単位当たり費用, 来館当たり費用
(2)アクセス	資料の受入に要する期間(中央値), 整理に要する時間(中央値)
(3)職員	職員の利用者サービス従事立, 正答率, 職員人件費に対する資料購入費の割合, 資料整理における職員の生産性
(4)全般	利用者当たり費用
発展可能性	
(1) コレクション	電子的コレクション提供にかかる経費の割合
(2) 職員	電子的サービスに従事している職員の割合
(3)全般	特別助成金または創出収入によって得た資金の割合, 図書館向けに措置される機関の資金の割合

注1「タイトル」: ある一冊の図書やある一冊の雑誌などの「ある一点の資料」

注2「利用可能性 (availability)」: ある特定のタイトルが実際にその図書館で入手可能かどうかを意味する概念。あるタイトルを選んで、それを所蔵しているか、書架上に存在するか、相互貸借で入手するまでにどれくらい時間がかかるか調べるなどして測定する。

アメリカの公共図書館評価

全国共通の評価基準の設定

→ 指標の算出方法の共通化。使用する指標、目標値は各図書館が設定。

→ 測定の重点は、アウトプットからアウトカムへ

例 プロジェクト・アウトカム (アメリカ公共図書館協会) (2014年~) ^{5 6}

8つの調査領域

アンケート形式の即時調査⁷と追跡調査

イギリスの公共図書館評価

2001年 全国共通の評価基準 (指標と目標値) の制定⁸ → 約10年後に廃止

2.4 他館種の動向 (日本)

大学図書館

- 1999年「**大学設置基準**」大学の自己点検・評価 (義務)
- 2002年 **学校教育法改正**

認証評価制度の導入 (第三者機関による大学評価) (第109条)

⇒2018年度より、7年ごとの評価の3巡目が開始

国立国会図書館

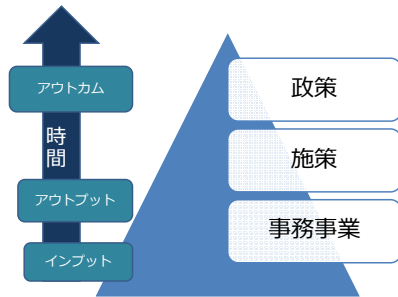
- 2004年度 活動評価の開始 (現在は名称を**活動実績評価**に変更)

3. 自治体評価の中の公共図書館評価

公共図書館評価の2つの文脈

- ① 図書館独自の評価
- ② 自治体全体の評価体系に基づく評価 (政策・施策・事務事業評価)

政策体系と評価



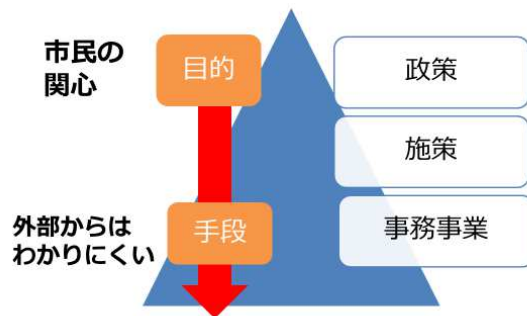
政策「未来を拓く人と豊かな文化の育成」
 施策「生涯学習・スポーツの推進」
 事務事業「図書館事業」（架空の例）

一般的な事務事業評価の方法：
 共通の評価シートを使って、年度ごとに、部署別・
 事業別に、数値目標を設定して事後評価する。

11

⇒評価の実施率（2016年） 政策評価：26.8% 施策評価：61.0% 事務事業評価：95.7%⁹

外部からみたとき…



現在、従来の事務事業評価を廃止、
 転換する自治体も現れている。

4. 図書館評価の課題

4.1 現場で認知されている課題

表4 図書館の現場で認知されている評価導入上の課題

課題	都道府県	市区町村
適切な評価基準の策定	96.3%	74.9%
適切な数値目標の設定	81.5%	59.3%
評価結果の具体的な活用	81.5%	55.2%
評価実施の仕組みづくり	51.9%	46.3%
費用対効果の測定方法	22.2%	36.9%
評価を行うことの意義をすべての職員が理解	55.6%	28.3%

出典：みずほ情報総研『図書館の自己評価、外部評価及び運営の状況に関する情報提供の実態調査』p.42¹⁰

費用対効果とは： サービスの効果をそのサービスを提供するためにかけた費用に対比して評価する方法。公共図書館では、初期投資や人件費などを含めた総費用の把握が難しいことが問題。

行政評価でも

「作業のわりに効果がよくわからない」¹¹ 「作業の負担感」「やらされ感」¹²

自治体評価の問題点(今井 2001)^{13 14}

- 評価に耐えうる目的の不在
- 政策の体系化が十分でない（目的と手段の関係になっていない場合がある）
- 関連ある計画が複数存在し、計画間に整合性がない
- 事業実施にあたって外部との調整が必要
- コスト感覚が不十分
- 政策決定や執行に対する責任があいまい
- 政策循環の不在

⇒ 評価の問題は、評価だけを改善すれば解決するものではない。むしろ計画や政策体系全体の問題。

4.2 「評価影響」の概念

2000年代 アメリカ

評価の長期的、間接的影響への注目

日本の公共図書館における調査（田辺 2019）¹⁵

評価影響として公共図書館員に認識されている内容

- 認識面に与える変化
- モチベーション
- 行動の変化、対外説明への利用
- 職員間の課題共有 など

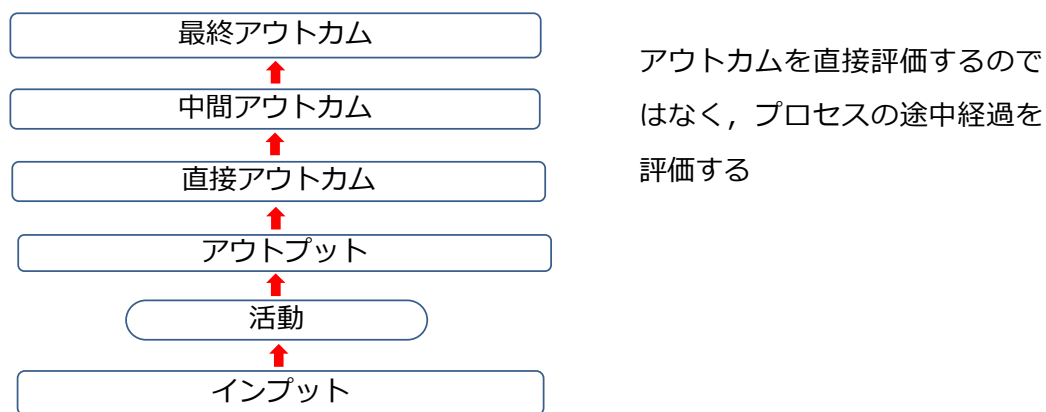
5. 「役立てる」評価：政策の逆引きとロジックモデル

5.1 政策体系の逆引き

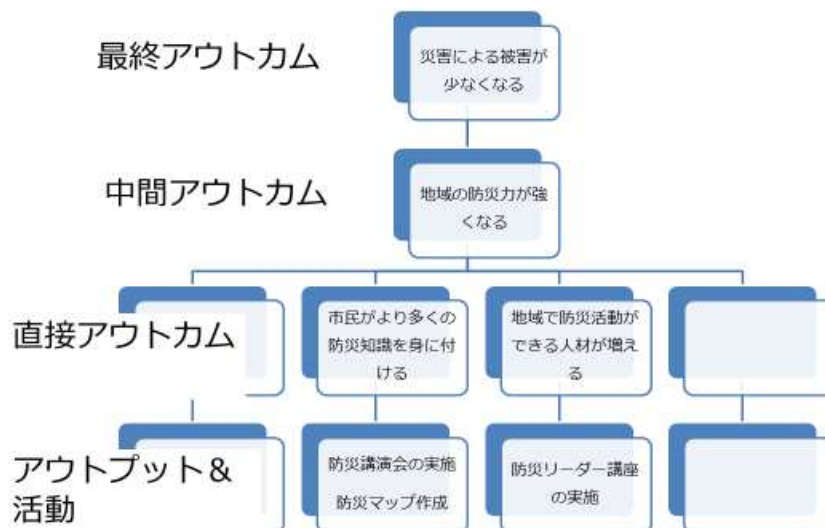
「政策体系の逆引き」(今井 2001)とは： 計画や当初の目的に戻るのではなく、現在のサービスや事業をもとに「どう役立っているのか」「将来役立ちそうか」を考える

5.2 ロジックモデル

ロジックモデル「手段と目的の因果関係の体系図」(源 2016) ¹⁶



ロジックモデル (源 2016 p.37 を参考に作成)



ロジックモデルに基づく評価は、正式には、プログラムに対する評価という形で、組織横断的に実施される。しかし個々の部署でも、事業実施に際して、なんらかのロジック（にあたるもの）は普段から考えているはず。

計画の重要性

計画終了後まで待つのではなく、途中段階で方向性を確認できるはず。

6. 評価方法の留意点

6.1 目標達成が測定できる評価か？

操作的定義 (operational definition) とは： 評価したいこと、すなわち、抽象的（概念的）内容の目標を、評価しうる具体的な形として定義すること

例) 目標「児童サービスの充実」

→操作的定義「児童書の貸出」、尺度「貸出冊数」、指標「貸出密度」

→操作的定義「おはなし会の実施」、尺度「利用満足度」、指標「おはなし会参加者の満足度」

表 5 抽象的目標と数値指標の対応の例（さいたま市）

ビジョンの目標	基本方針	指標
知的好奇心に応える図書館	図書館利用の普及と PR 及び情報発信の強化	新規登録者数
		貸出総数
		来館者数
		貸出利用人数
		市民一人当たり貸出数
		メールマガジン配信件数
	幅広く計画的な資料の収集・保存	資料回転率
		雑誌タイトル数
		新聞タイトル数
		所蔵タイトル数（図書）
		蔵書冊数（市民一人当たり）
	地域の歴史と文化の保存	寄贈資料受入点数
	ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	地域・行政資料の蔵書数
		ホームページコンテンツの充実
		インターネットの延利用人数
	文化事業の開催	自動貸出機の導入の推進
講座等の実施回数		

		映画会の開催回数
		展示会の開催回数
生きる力を支える 図書館	あらゆる世代に向けたサービスの充実	(略)
	レファレンスサービスの充実	
	地域の課題解決	
	生活支援サービスの展開	
	バリアフリーサービスの充実	
	多文化サービスの充実	
	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	
市民とともに歩む 図書館	図書館評価と市民意識の反映	
	市民との協働	
	関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	
	地域の特色を生かした運営	
誰もが安心して 使える図書館	親しみやすい図書館づくり	
	職員の資質・能力の向上	
	専門的職員の配置	
	施設・設備の充実	
	持続的で安定して図書館の運営	
	危機管理体制の強化	

出典：『平成 29 年度さいたま市図書館評価 報告書』より抜粋¹⁷

6.2 誰がいつ測定しても同じ結果になるか？

信頼性（測定の精度）

信頼性が低い 測るたびに結果がちがう

信頼性が高い 常に同じ結果

精度を上げるには： マニュアル化，機械計測など

6.3 目標設定は適切か？

よく用いられる設定方法

①現状よりアップ ②相対的位置付け（例 全国上位 10%）

③キリのいい数値（一見わかりやすいが，目標としての妥当性が判定しづらい。）

達成の見込める現実的なレベル設定

6.4 評価に手間をかけすぎていないか？

経営資源（ヒト、モノ、カネ、時間など）の制約

目的は、評価すること自体でなく、経営改善

参考 「測定執着」（ミュラー2019）¹⁸

[省力化]

過度に精緻化せず，方向性と進捗度を「おおよそ」把握することをめざす。

- 評価したいことに業務統計の形を合わせる。

例) あらかじめデータに適切な区分（利用資料の主題や利用者の属性など）を設定し，それが業務の遂行に際して収集されるよう準備する（例えば，主題分野別の貸出延べ冊数を集計するには，貸出処理に際して収集されるデータの中に，資料の NDC データが含まれるようにしておく必要がある）。

- 既存の調査統計（『日本の図書館』，社会生活基本調査（総務省），自治体が行う各種住民調査など）を活用する。

表 6 代表的な図書館評価指標と『日本の図書館』データの対応

		指標	備考	区分(注1)
インプット指標	1	人口		A
	2	図書館数		A
	3	占有床面積		A
	4	専任職員数		A
	5	専任+非常勤・臨時+委託・派遣		A
	6	蔵書数		A
	7	開架資料数		A
	8	図書館費（人件費を除く）		A
	9	資料費		A
	10	年間受入点数		A
	11	人口当資料費		A
中間的指標 注2)	12	開館日数	中央図書館の開館日数	B
	13	有効登録者	数年度内に登録または利用した人数	B
	14	有効登録者登録率	有効登録者数/人口	A
	15	専任司書率（%）	専任司書/専任職員	A
	16	雑誌購入種数		A
	17	新聞種数		B

	18	蔵書更新率	(年間受入点数-年間除籍数) / 前年度未蔵書数	A
	19	開架資料更新率	年間受け入れ数/開架資料数	A
	20	利用者端末数		B
アウトプット指標	21	来館者数		B
	22	予約件数		A
	23	貸出点数		A
	24	人口当貸出点数	年間貸出点数/人口	A
	25	蔵書回転率	年間貸出数/蔵書数	A
	26	団体貸出数		A
	27	レファレンス・読書案内受付件数		B
	28	集会行事参加人数		C
アウトカム指標	29	ホームページアクセス件数		C
	30	項目別及び全体の図書館利用者満足度		C
	31	職員の職場満足度		C

出典『図書館評価プロジェクト中間報告』(2011)¹⁹

(注1) 区分 A:『日本の図書館』掲載または、計算が可能, B:『日本の図書館』調査項目にあり, C:『日本の図書館』調査項目になし

(注2) 中間的指標「従来はインプットかアウトプットのどちらかに区分されていたもので、多分に図書館側の努力により数値が変わると思われるもの」

[重点化]

評価対象を重点項目に絞る（重点項目外でも、業務進捗度のチェックは別途行う）。

表 7 重点を絞った評価の例（神奈川県立図書館 平成 29 年度）

活動指標	数値目標	備考
1 テーマによる資料展示回数	130 件	本館展示室の展示をはじめとして、トピックス展示、ミニ展示など、テーマによる資料展示を行った回数
2 県民公開講座参加者数	2000 人	主催する県民公開講座の参加者数
3 職員の文献執筆及び講師実績件数	110 件	職員の日頃の研究活動及び成果の発信状況を表す文献等の執筆、研修会の講師、研究集会での発表等の件数
4 ホームページコンテンツの新規作成件数	100 件	デジタル・アーカイブの整備や、ブログ風記事「司書の出番！」など、独自に作成するホームページコンテンツの新規作成件数
5 メディア掲載件数	70 件	活動・取組みが新聞・雑誌・放送・ウェブサイト等の外部

		メディアに掲載された件数
6 電子ファイル資料登録件数	310 件	「神奈川県行政資料アーカイブ」事業の電子ファイル等登録件数

図書館活動の数値指標（平成 29 年度）²⁰

注) 神奈川県立図書館では、入館者数、個人等への図書等貸出点数、レファレンス件数などは、基礎的なデータとして取ることとし、年間数値目標として掲げることはしていない。

6.5 質的評価

言葉で図書館の「よさ」を説明する方法

例) 蔵書のレベルや多様性、図書館の持つ雰囲気、新たな発見を導くような展示の工夫など

- 最終的なアウトカムは、本来、質的方法による表現がふさわしい。

参考) 「図書館で夢を実現しました大賞」(鳥取県立図書館のビジネス支援サービス)²¹

- 数値以上のインパクトを伝える力がある一方、相対的比較は難しく、あらかじめ目標として設定することはできない。

6. 外部評価

(1) 図書館協議会やその他の有識者による評価

(2) 利用者による評価

- 来館者や住民全体に対するアンケート調査 (後述)
- ワークショップ形式の評価

対話を通して、参加者が「納得した」評価基準に基づいて評価する

例) 図書館の通信簿ツアー (岡山県瀬戸内市)²²

図書館以外では、参加型評価 (兵庫県豊岡市, 東京都品川区)²³ 協働型評価 (千葉県習志野市)²⁴ などの例がある。

第 2 部 評価データ取得のための調査

調査方法: アンケート調査, インタビュー調査, 観察, 職員による測定 (例 利用座席数) など

- 業務統計で得られない必要項目のみとし、最小限の範囲で行う。
- 継続実施する場合は、前回、改善した結果が出ているか検証できる時間をおく。

7. 来館者評価と住民調査

- 調査の実施率（2009年）²⁵

来館者調査 都道府県 76.5%，市区町村 13.7%

住民調査 都道府県 9.8%，市区町村 7.8%

- 推定に必要な標本数

標本誤差の推定は、推測統計学の理論・手法を用いて行うことが可能

例 賛成か反対か（50%，50%の推定）

信頼度 95%（100回のうち95回は同じ結果）

表 8 推定に必要な標本数

	母集団 1000 人	10 万人	100 万人
誤差の幅±10%	88 人	96 人	
±5%	278 人	383 人	384 人
±2.5%		1515 人	

⇒ 無作為抽出で行った場合、400 人調査すれば、「賛成か、反対か」ほぼ推定可能、最低でも 100 人の調査が必要

統計的手法の詳細については岸田を参照²⁶

7.1 来館者調査

- 偏りのないデータを得る。
 - ✓ 利用傾向が特殊な期間を避けて実施（夏休み期間，年末年始，地域のイベントの実施日，大学図書館では試験期間など）

- ✓ すべての曜日のすべての時間帯（午前、午後、夜間など）について 1 週間実施できれば理想的。しかし、1 日あたりの来館者が 500 名を超える図書館では、半分の 3 日程度でも十分な数の標本が得られることが確認されている²⁷。
- 予備的な調査を必ず実施する。
 - ✓ 調査票の内容や調査方法に問題がないか
 - ✓ 他の部署や他の図書館の調査事例が参考になる^{28 29}。

7.2 住民調査

- 図書館独自で住民の無作為抽出を行うことは、實際上、困難。
- 行政モニター（住民から広くモニターを公募し、登録したモニターに、アンケートへの回答や会議等の参加を通し、行政に対する意見を調べる制度）を活用する方法が現実的。ただ行政モニターは無作為抽出ではないので、回答に一定の偏りがあることは意識しておく必要がある。実施例 近江八幡市（2016）³⁰、浜松市（2016）³¹、相模原市（2015）³²など
- 住民全体の調査に比べて、来館者調査の満足度は高めに出る³³。

8. 調査票の設計

調査票の設計における基本的注意事項は、浅井(1987)³⁴、大谷(2013)³⁵などの文献を参照。

参考) 市町村の総合計画策定のための意識調査を対象とした大谷らの研究³⁶でも、具体例を多く引用しながら調査の問題点を検証している。

来館者調査の注意点（浅井(1987)による）

- ① 不必要な質問は含めないこと
- ② 質問を設定する前に、それからどのような統計ができるかを想像してみる

③ 質問あるいは説明の言葉使いは平易な話し言葉そのままに。

図書館の専門用語や業界用語を使わないように気をつける。例「資料」「レファレンス」「相互貸借」など

④ 回答が難しい表現を必要とするものは避けること。

抽象性の高い概念（例 デザインやメロディ等の「感じ」）を言葉で表現させるなど。どうしても必要な場合は、選択肢を設けて選ばせるという方法をとることができる。

⑤ 質問によって回答を誘導することがある。

例) 言葉のもつイメージによる誘導

ステレオタイプ（本来の意味内容のほかに、特別な価値的ニュアンスを持っている単語）な言葉避け、より中立な表現に変える³⁷。

例) 過剰な前置きによる誘導

質問の前置きにおいて、政治家などの権威ある人や社会の多くの人が持っている見解であることを伺わせる表現があることによって、回答が誘導されることがある（威光顕示効果）³⁸。

例) 質問の順序による誘導

ある質問への回答が後の質問への回答に影響を与えてしまうことがある（キャリーオーバー効果）³⁹。

⑥ 複数の内容をもった質問は避けること

ひとつの質問文の中に、複数の内容が同時に含まれることがないように注意する。

⑦ 個々の質問の無回答を極力なくすよう努力すること

直感的に回答できる内容にする。回答者にとって関心のないこと、知られていないことはあまり尋ねない。

質問の量は多すぎないこと

- ・ 質問の多さは回収率を下げる。また評価は、本来、改善を行うために実施するものである。
- ・ 改善の見込みのない事項について尋ねても意味がなく、かえって回答者に不満が残るだけである。

9. 調査結果の分析

全体の傾向の把握

- 主な調査の項目について、結果をグラフや表にまとめる。データの集約を通して、全体の傾向が見えてくるはず。
- **クロス集計** あらかじめ設定した仮説に即して、調査項目を設定しておく（利用の多い（少ない）利用者はどのような属性を持つ人々か/ どのような条件のもとで利用が増える（減る）か など）

比較による評価

- さらに平均値や中央値のような統計量を算出することによって、過去のデータや他の自治体のデータとの比較を行うことが容易になる。しかし統計量は、全体の分布に関する情報のかなりの部分を捨象している点に注意する必要がある。
- 比較対象としては、あらかじめ合意された「基準」や「ガイドライン」類、近隣自治体の実績などがある⁴⁰。

¹ 荻原幸子「ニュー・パブリック・マネジメント論と公共図書館経営論」日本図書館情報学会研究委員会編『図書館の経営評価：パフォーマンス指標による新たな図書館評価の可能性』勉誠出版、2003、p.3-28（シリーズ・図書館情報学のフロンティア 3）。

² 図書館流通センター『平成 27 年度「公立図書館の実態に関する調査研究」報告書』2016。（文部科学省委託研究）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/1378719.htm

³ 日本図書館協会図書館政策委員会望ましい基準検討チーム『図書館の設置及び運営上の望ましい基準：活用の手引き』2014、112p.

⁴ 永田治樹「E1608 - 図書館のインパクト評価のための方法と手順 ISO 16439:2014」『カレントアウェアネス-E』No.267 2014.09.25 <http://current.ndl.go.jp/e1608>

⁵ Public Library Association. Project Outcome.
<https://www.projectoutcome.org/>

⁶ 8つの図書館サービス領域（住民／地域への関与、デジタル学習、幼児のリテラシー、経済的発展、教育／生涯学習、職業能力、夏休みの読書、健康）について、サービスの終

了直後の即時調査と終了後 4~8 週間後の追跡調査を行う方法によって評価する。アメリカ公共図書館協会が調査ツールを作成、無料で提供している。

久常香織「E1911 - 北米の公共図書館におけるサービスやプログラムの効果を測る」『カレントアウェアネス-E』No.324, 2017 年 4 月 27 日. <http://current.ndl.go.jp/e1911>

⁷ 即時調査のアンケート項目（健康の例）

1. 今日、取り上げられた健康問題について、知識が増えたように思いますか
2. 自分や家族の健康を守ることに関し、自信がついたように思いますか
健康な生活スタイルを取り入れ、または維持するために、学んだ内容を実践していきたいと
思いますか
図書館で提供されている健康に関する本や雑誌、サービスをより詳しく知ることができ
たように思いますか
5. 今日のプログラムの中でもっとも好ましいところはどこですか。
6. あなたが健康についてさらに学んでいくうえで、図書館はどんな手助けができると思
われますか。

⁸ ①図書館まで一定の距離内に住む住民の割合 ②人口当たり開館時間 ③④インターネット端末の提供の割合と端末数 ⑤一定期間内に予約資料が用意できる割合 ⑥人口当たり来館者数 ⑦⑧利用満足度 ⑨人口当たり年間資料購入点数 ⑩貸出用資料が更新されるまでの年数（Public Library Standards 2006 年改訂）

⁹ 総務省自治行政局行政経営支援室「地方公共団体における行政評価の取組状況等に関する調査結果（2016（平成 28）年 10 月 1 日現在）」

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02gyosei04_04000001.html

¹⁰ みずほ情報総研『図書館の自己評価、外部評価及び運営の状況に関する情報提供の実態調査報告書』2009.

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/shiryo/1284904.htm

¹¹ 茂木康俊. 行政評価ブーム後の自治体における政策評価制度の変化と課題. 地方自治研究. 2015, vol.30, no.2, p.1-17.

¹² 田淵雪子. 地方自治体における行政評価 12 年の歩みと今後の展望. 三菱総合研究所報. 2010, no.53, p.30-53.

¹³ 今井照『新自治体の政策形成』学陽書房, 2001, 212 p.

¹⁴ 次の文献で、今井の分析について図書館を例に解説した。

須賀千絵「公共図書館における計画と評価」『公共図書館運営の新たな動向』日本図書館情報学会研究委員会編, 勉誠出版, 2018, p.3-21（わかる！図書館情報学シリーズ 5）.

-
- ¹⁵ 田辺智子「業績測定の利用と影響：公共図書館を事例とした実証分析」『日本評価研究』. 19(2), 2019, p.3-18. http://evaluationjp.org/files/Vol19_No2.pdf
- ¹⁶ 源由理子『参加型評価』晃洋書房, 2016, 237p.
- ¹⁷ さいたま市立中央図書館「平成 29 年度さいたま市図書館評価 報告書」2017.
<https://www.lib.city.saitama.jp/images/upload/evaluationH29.pdf>
- ¹⁸ ジェリー・Z・ミュラー, 松本裕 訳『測りすぎ：なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?』みすず書房, 2019, 189,22p.
- ¹⁹ 図書館評価プロジェクトチーム編『図書館評価プロジェクト中間報告：公立図書館の自己点検評価のためのマニュアル（別表：評価指標人口段階別目標数値一覧つき）』日本図書館協会, 2011. <https://www.jla.or.jp/portals/0/html/hyoka.pdf>
- ²⁰ 神奈川県立図書館「図書館活動の数値指標（平成 29 年度）」
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/performance/knrt_hyouka_h29_honbun.pdf
- ²¹ 鳥取県立図書館「図書館で夢を実現しました大賞」
<http://www.library.pref.tottori.jp/business/cat/cat6/>
- ²² としょかん未来ミーティング瀬戸内市
https://lib.city.setouchi.lg.jp/setouchi_lib/log.html
- ²³ 源(2014)
- ²⁴ 眞殿弘一ほか「習志野市における協働型評価プログラムの実践」平成 27 年度政策評価に関する統一研修（総務省）, 2016 年 1 月 29 日.
http://www.soumu.go.jp/main_content/000420761.pdf
- ²⁵ 全国公共図書館協議会『公立図書館における評価に関する実態調査報告書』2009, 71p. https://www.library.metro.tokyo.jp/pdf/15/pdf/2008_chap00.pdf
- ²⁶ 岸田和明『図書館情報学における統計的方法』樹村房, 2015.7, 252p.
- ²⁷ 岸田和明, 小池信彦, 阿部峰雄, 井上勝, 植田佳宏, 下川和彦, 早川光彦「来館者調査についての方法的検討：利用者満足度に関する実証分析を通じて」『現代の図書館』Vol.43, No.1, 2005, p.34-50.
- ²⁸ 全国公共図書館協議会（2009）
- ²⁹ みずほ情報総研（2009）
- ³⁰ 近江八幡市(2016)
<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/cmsfiles/contents/0000010/10448/H27.3.kokka.pdf>

³¹ 浜松市(2016)

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/koho2/moni/28-3/index.html>

³² 相模原市(2015)

http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/014/813/20180802_2/h27_01.pdf

³³ 岸田和明「図書館経営の評価法：図書館パフォーマンス指標の利用について」『現代の図書館』Vol.41, No.1, 2003, p.34-39.

³⁴ 浅井晃『調査の技術』日科技連, 1987, 291p.

³⁵ 大谷信介 [ほか] 編著『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房, 2013, ix, 399 p.

³⁶ 大谷信介編著『これでいいのか市民意識調査：大阪府 44 市町村の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房, 2002, 255p.

³⁷ 大谷[ほか](2013)

³⁸ 世論調査 長~い「前置き」外務省「お手盛り」の声も：G7 外相会合の評価聞く。朝日新聞。2016 年 4 月 29 日。

³⁹ 大谷[ほか](2013)

⁴⁰ 貸出密度上位 10%の市町村図書館の統計値（『図書館の設置及び運営上の望ましい基準：活用の手引き』2014）など